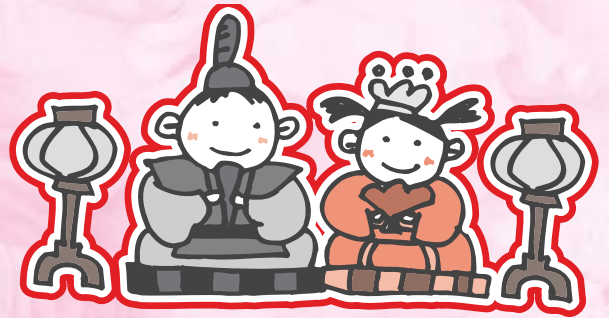


まちの話題



日本伝統工芸士会 功労者表彰

平成25年度日本伝統工芸士会功労者表彰式が11月1日に和歌山市民会館で開催され、塗物・織物・焼物などの伝統工芸士会功労者26名が表彰を受け、下野市では本吉田の鶴見絹江氏が表彰されました。

鶴見氏は、長年にわたり本場結城紬伝統工芸士会の会員として、伝統工芸である結城紬の伝統文化の維持・継承と技術保存に尽力されてきました。その功績



が認められ、日本伝統工芸士会功労者表彰を受賞しました。

市内で3名の方が百歳を迎えられました。皆様には市長より祝詞とお祝いの品を贈呈しました。いつまでもお元気で過ごしてください。

澤野ゆきさん(大正2年12月生)は、習字や絵、切り花などを本格的に習い、また若い時には社会的なことにも興味があり、婦人クラブに入ったり読書会をしていたそうです。若いころから人に尽くしており、施設では皆さんから慕われて過ごされています。「一生は楽しいものだった。幸せだった。」とおっしゃっています。



澤野ゆきさん

日向野フサさん(大正3年1月生)さんは、80歳まで勤め先の特別顧問として働いていました。好きな言葉は「すべてに感謝せよ」で、朝と夜に30分間のお経をあげています。一番幸せだったときは、「夫が皇居の春秋の間で、昭和天皇ご夫妻から勲六等瑞宝章をいただき、頭をなでてくださいましたこと」と、おっしゃっていました。



日向野フサさん

小倉重枝さん(大正3年1月生)は、ご飯も好き嫌いなく残さず食べ、元気に過ごされています。若いころはお裁縫を習っており、振袖も作ったそうです。現在は、デイサービスに行き、皆さんとお話したり運動するのを楽しみにしているそうです。



小倉重枝さん

百歳のお祝いの後、体調を崩され、2月11日にお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りします。

百歳おめでとう！